

東京ひのき外語学院 学則

第1章 総 則

(目的)

第1条 本学は、日本の大学院、大学、短期大学又は専門学校への進学を希望する外国人に対して、日本語教育を行うとともに自然科学及び人文科学の指導も行い、国際的な広い視野を持った、優れた人材を育成し、もって国際文化交流の促進に寄与することを目標とする。

(名称)

第2条 本学は、東京ひのき外語学院という。

(位置)

第3条 本学は、本校舎を東京都世田谷区北沢 2-29-7 に置き、代田分室を東京都世田谷区代田 5-35-10 に、北沢分室を東京都世田谷区北沢 2-28-16 に置く。

第2章 コース、修業期間、収容定員及び休業日

(コース・修業期間・収容定員)

第4条 本学のコース、修業期間、収容定員及びクラス数は、次の表のとおりとする。

| 第1部・第2部 | コース名 | 修業期間 | 収容定員 | クラス数 | 備考 |
|---------|----------------|-------|------|-------|--|
| 第1部 | 1年3か月 進学コース | 1年3か月 | 35名 | 2クラス | |
| | 1年6か月 進学コース | 1年6か月 | 97名 | 5クラス | |
| | 1年9か月 進学コース | 1年9か月 | 40名 | 2クラス | |
| | 2年 進学コース | 2年 | 119名 | 6クラス | |
| | 小計 | | 291名 | 15クラス | 1月生 35名 4月生 119名 7月生 40名 10月生 97名 |

| | | | | | |
|-----|----------------|-------|------|-------|--|
| 第2部 | 1年3か月 進学コース | 1年3か月 | 35名 | 2クラス | |
| | 1年6か月 進学コース | 1年6か月 | 97名 | 5クラス | |
| | 1年9か月 進学コース | 1年9か月 | 40名 | 2クラス | |
| | 2年 進学コース | 2年 | 119名 | 6クラス | |
| | 小計 | | 291名 | 15クラス | 1月生 35名 4月生 119名 7月生 40名 10月生 97名 |
| 計 | | | 582名 | 30クラス | |

(始期・終期等)

第5条 本学の1年3か月進学コースは、1月に始まり翌年の3月に終わる。1年6か月進学コースは、10月に始まり翌年3月に終わる。1年9か月進学コースは、7月に始まり翌年3月に終わる。2年進学コースは、4月に始まり翌年3月に終わる。

2 前項の期間を分けて、次の学期とする。

- (1) 第1学期 4月1日から 6月30日まで
- (2) 第2学期 7月1日から 9月30日まで
- (3) 第3学期 10月1日から12月31日まで
- (4) 第4学期 1月1日から 3月31日まで

(休業日)

第6条 本学の休業日は、次のとおりとする。ただし、(3)から(6)までの休業日は、前年度末に定めるものとする。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律で規定する休日
- (3) 春期休業
- (4) 夏期休業
- (5) 秋期休業
- (6) 冬期休業

2 教育上必要であり、かつ、やむを得ない事情があると学院長が認めるときは、前項の規定にかかわらず、休業日に授業を行うことができる。

3 非常災害その他急迫の事情があると学院長が認めるときは、臨時に授業を行わないことができる。

(授業の終始時刻)

第7条 授業の終始時刻は、学院長が別に定める。

第3章 教育課程、授業時数、学習の評価及び教職員組織

(教育課程)

第8条 本学の各コース別の教育課程及び授業時間数は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、ここにいう授業時間の1単位時間は、45分とする。

(1) 1年3か月進学コース

| レベル・期間(週) | 授業の内容・科目 | 週当たりの授業時間数 |
|-----------|--|------------|
| 初級 12週 | 初級後半の文型 実用会話の習得 語彙力の向上、漢字約500字 | 20時間(1週) |
| 中級 28週 | N2程度の文法・語彙・漢字・ 作文・聴解・読解力の定着 日留試験対策 コミュニケーション能力の向上 | 20時間(1週) |
| 中上級 16週 | N1程度の文法・語彙・漢字 時事日本語 入試面接・論文の準備 | 20時間(1週) |

(2) 1年6か月進学コース

| レベル・期間(週) | 授業の内容・科目 | 週当たりの授業時間数 |
|--------------|--|------------|
| 基礎・初級日本語 24週 | 基本文型・正確な発音・聴解・会 話・読解・漢字・作文 | 20時間(1週) |
| 中級日本語 28週 | 文法・語彙・読解・聴解・会話・ 小論文・能力試験N2対策・日本 留学試験対策 | 20時間(1週) |
| 中上級日本語 16週 | 文法・語彙・読解・聴解・スピー チ・討論・小論文・面接練習・入 試対策 | 20時間(1週) |

(3) 1年9か月進学コース

| レベル・期間（週） | 授業の内容・科目 | 週当たりの授業時間数 |
|---------------|--|------------|
| 基礎・初級日本語 24 週 | 基本文型・正確な発音・聴解・会話・読解・漢字・作文 | 20 時間（1 週） |
| 中級日本語 12 週 | 文法・語彙・読解・聴解・会話・小論文・能力試験 N2 対策・日本留学試験対策 | 20 時間（1 週） |
| 中上級日本語 24 週 | 文法・語彙・読解・聴解・会話・小論文・面接練習・能力試験 N1 対策・日本留学試験対策・入試対策 | 20 時間（1 週） |
| 上級日本語 20 週 | 文法・語彙・読解・聴解・スピーチ・討論・小論文・面接練習・入試対策 | 20 時間（1 週） |

(4) 2年進学コース

| レベル・期間（週） | 授業の内容・科目 | 週当たりの授業時間数 |
|---------------|--|------------|
| 基礎・初級日本語 24 週 | 基本文型・正確な発音・聴解・会話・読解・漢字・作文 | 20 時間（1 週） |
| 中級日本語 12 週 | 文法・語彙・読解・聴解・会話・小論文・能力試験 N2 対策・日本留学試験対策 | 20 時間（1 週） |
| 中上級日本語 36 週 | 文法・語彙・読解・聴解・会話・小論文・面接練習・能力試験 N1 対策・日本留学試験対策・入試対策 | 20 時間（1 週） |
| 上級日本語 20 週 | 文法・語彙・読解・聴解・スピーチ・討論・小論文・面接練習・入試対策 | 20 時間（1 週） |

(学習の評価)

第9条 学習の評価は、試験成績、出席状況、本学の行事への積極的参加などを総合して決定し、5段階評価とする。

(教職員組織)

第10条 本学には次の教職員を置く。

- (1) 学院長
- (2) 主任教員
- (3) 教員 40 名以上(うち専任 15 名以上)
- (4) 生活指導担当者 6 名以上(うち専任 4 名以上)
- (5) 事務職員 4 名以上(うち専任 2 名以上)
- 2 前項のほか、必要な職員を置くことができる。
- 3 学院長は、校務をつかさどり、所属教職員を監督する。

第 4 章 入学、休学、退学、卒業及び賞罰

(入学資格)

第 1 1 条 本学への入学資格は、次の条件をいずれも満たしていることとする。ただし、既に在留の許可を受けている者で、短期間の入学を希望するものについては、この限りでない。

- (1) 12 年以上の学校教育又はそれに準ずる課程を修了している者
- (2) 正当な手続によって日本国への入国が許可され、又は許可される見込みのある者
- (3) 信頼のおける保証人を有する者

(入学時期)

第 1 2 条 本学への入学は、年 4 回とし、その時期は、1 月、4 月、7 月及び 10 月とする。

(入学手続)

第 1 3 条 本学の入学手続は、次のとおりとする。

- (1) 本学に入学しようとする者は、本学が定める入学願書その他の書類に必要な事項を記載し、第 19 条に定める入学検定料を添えて、指定期日までに出席しなければならぬ。
- (2) 前項の手続を完了した者に対して選考を行い、入学者を決定する。

(休学・復学)

第 1 4 条 生徒が疾病その他やむを得ない事由によって、30 日以上休学しようとする場合は、その事由及び休学の期間を記載した休学届に、診断書その他の必要な書類を添えて申請し、学院長の許可を受けなければならない。

- 2 休学した者が復学しようとする場合は、学院長にその旨を届け出て、学院長の許可を得て復学することができる。

(退学)

- 第15条 退学しようとする者は、その事由を記し、学院長の許可を受けなければならない。

(修了・卒業の認定)

- 第16条 学院長は、教育課程で定められた各授業科目について第9条に定める学習の評価を行い、一定の評価を受けた者に対して当該科目の修了を認定する。

- 2 学院長は、本学の所定の課程を修了した者に対して、卒業証書を授与する。

(褒賞)

- 第17条 学院長は、成績優秀かつ他の生徒の模範となる者に対して、褒賞を与えることができる。

(懲戒処分)

- 第18条 生徒が、この学則その他本学の定める諸規則を守らず、その本分にもとる行為があったときは、学院長は、当該生徒に対して懲戒処分を行うことができる。

- 2 懲戒処分の種類は、訓告、停学及び退学の3種とする。

- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する生徒に対してのみ、行うものとする。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由なく出席が常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者

第5章 生徒納付金

(生徒納付金)

- 第19条 本学の生徒納付金は、次のとおりとする。

- | | | | |
|-----|-------|-----------|---------|
| (1) | 入学検定料 | 30,000 円 | |
| (2) | 入学金 | 60,000 円 | (初年度のみ) |
| (3) | 授業料 | 700,000 円 | (年額) |

(4) 教材費 40,000 円

(5) 課外活動費他 20,000 円

(注) 初年度(1年間) の納付金は、上記(1)から(5)までの金額に、当時の消費税を加えたものとする。次年度納入金額についても同様とする。

(納入)

第20条 生徒が在籍中は、出席の有無にかかわらず、授業料を所定の期日までに納入しなければならない。

2 生徒が休学した場合は、前項の規定にかかわらず、その始期に属する月の翌月から授業料を免除することができる。

3 特別の事由がある場合は、第1項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、授業料の全部又は一部を減免することができる。

(滞納)

第21条 生徒が、正当な理由なく、かつ、所定の手続を行わず、授業料を2か月以上滞納し、その後においても納入の見込みのない場合には、学院長は、当該生徒に対して退学を命ずることができる。

(返還)

第22条 既に納入した生徒納付金は、原則として返還しない。

第6章 雑則

(寄宿舎)

第23条 寄宿舎に関する事項は、学院長が別に定める。

(健康診断)

第24条 健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより実施する。

(細則)

第25条 この学則についての細則は、学院長が別に定める。

附則

この学則は、平成14年10月1日から施行する。

- 平成16年12月20日 学則19条を改定する。
- 平成17年4月26日 学則4条、8条、16条2項(文字の挿入)、18条3項(1字訂正)を改定、修正、補足を行う。
- 平成17年6月8日 定員変更の申請に基づき、学則4条を改定する。
- 平成19年10月9日 4月期、10月期のほかに7月期生を募集することを決定し、それに伴って学則第4条、第5条、第8条、第12条、第19条を改定した。
- 平成20年8月28日 実地調査に際して指摘された点の訂正・追加。
2, 4, 5, 8, 11, 13, 18, 21 各条については表記の訂正。
6条(1)に土曜日を追加。
18条(3)「各号の一つに」を「各号のいずれかに」に訂正。
- 平成22年9月14日 定員増加・学費改定について理事会の決定
4条 定員の増加
19条 課外活動費改定に伴い初年交納付金の変更以上を改定する。
- 平成25年11月8日 第3条 分室の設置補則
第4条 1年3か月進学コースを追加し、クラス数、定員を改定
第5条 1年3か月進学コースを追加。
第19条 消費税抜きの金額表示に改め、消費税分は別途加算する旨に改めた。
- 平成26年7月18日 第3条 分室の追加
第4条 定員増加
- 平成27年6月30日 第3条 分室の所在地変更
- 平成28年2月10日 第4条 収容定員の変更
第10条 教職員組織人数の変更
第19条 生徒納付金の変更
- 平成29年10月1日 第3条 北沢分室の設置を追加
第4条 収容定員、クラス数変更
第8条 週数の変更
第19条 生徒納付金の変更

- 平成 30 年 4 月 1 日
 - 第 8 条 レベル、期間（週）週数の変更
 - 第 10 条 教員、生活指導担当者、事務員の人数変更
- 平成 31 年 4 月 22 日
 - 第 19 条 授業料の変更
- 令和 3 年 4 月 1 日
 - 第 11 条 入学資格の変更
 - 第 19 条 生徒納付金の変更
- 令和 8 年 4 月 1 日
 - 第 8 条 授業時間の 1 単位時間の変更
 - 第 19 条 生徒納付金の変更